

学校給食部会

星名 久美子

給食・食で子どもが変わる

人の心を大切にする食育

皆で作って皆で食べる。仲間と「おいしいね」と笑顔で見つめあう。生きていく実感や、喜びを感じられる時間です。しかし、今このような日常的な時間の確保が厳しくなってきました。食を通して、自然や社会とつながりながら自分たちが成長している事に気付き、様々な体験活動のなかで感動し、どの子ども目も輝かせて授業に取り組むことができる。このような子どもたちの姿を描きながら毎月の定例会を実施しています。

箸指導の実践

「給食・食育で子どもが変わる」の本を出版後に取り組んだテーマは、和食を尊重した給食と箸の指導です。

箸指導の実践報告では、

(ア) 保育園児の、からだの発達に合わせ

た食具の使用↓ひとり一人の園児の成長に合わせ、使用する食具や持ち方を変え、成長速度の差が大きい保育園ならではの、個を尊重したきめ細やかな実践報告。

(イ) 教材を活用した指導↓①箸を持たない指に箸玉という教材を持たせ、3本の指で箸をしっかりと持ち、ゲームをして楽しみながら正しい箸の持ち方を習得。②骨付き魚の食べ方を習得することで、箸が上手に使えるようになる指導。

他に、給食委員会の児童が全校児童を対象として行う箸の指導。子どもたちは毎回楽しみにしているという報告もありました。

このように各校、様々な取り組みをしています。子どもたちからは「食べる時間が短縮でき、デザートまで残さずに食べられるようになった」「グループの友だちにほめられて嬉しかった」などの声

もありました。

箸文化の伝承と今後の課題

部会で箸指導の実践報告を行いながら箸の文献を調べると、箸の歴史の面白さや奥深さも解ってきました。日本では箸を縦に置かず横置きにする。これは、食べ物には自然界からの恵みである魂が宿るとして「結界」の意味が込められているからという説もある。「箸は神様と人間が共食するための神聖な道具」とされていたが、飛鳥時代に宮廷で箸食制度が発令され、庶民も使用するようになる。そして材質や形状を変え今の箸が定着。

このように、日本文化の歴史とともに箸文化も発展してきました。日本の食文化と同じように箸の文化も大切にする事が、和食を守る事にもなります。

箸使いの上達だけで満足するのではなく、食事の向き合い方の意識の変化も追及する。これが食を通しての人間教育であり、今後の課題でもあると考えます。次は、子どもの味覚や食事観にスポットをあてて話し合う予定です。

(共同研究者)